

がん診療連携拠点病院のあり方等に係る集中審議概要（その1）

1. がん診療連携拠点病院のあり方（役割・要件等）について

- ① がん診療連携拠点病院の役割について、どう考えるのか（均てん化・集約化）
 - 専門的な診療（粒子線治療、小児がん医療、一部手術等）は集約化、緩和ケアや一般的な放射線治療は均てん化の方向で検討してはどうか。
 - 5大がんは均てん化、稀少がんは集約化の方向で検討してはどうか。
 - 医師不足が進行しているため、手術についても、集約化を検討せざるを得ない状況。
 - しかし、拠点病院に患者を集約化させると、患者があふれてしまう
 - 病院という「点」ではなく、「面」的に地域で対応する方向性で検討すべき
- ② 拠点病院の配置等をどう考えるのか
 - 2次医療圏に概ね一箇所配置することについては、地域差もあり齟齬が生じているため、それぞれの地域ごとの実情を踏まえて指定すべき。
- ③ 都道府県認定拠点病院をどう考えるか

2. がん診療連携拠点病院の機能

- ① 機能の表示
 - 相談支援センターやセカンドオピニオンの掲示が患者目線で作られていない（わかりづらい）
- ② その他
 - 患者目線での対応強化という観点から、日本医療機能評価機構の病院機能評価を要件に入れてはどうか

3. がん診療連携拠点病院の評価

ネットワークによるアウトカム指標の導入についてどのように考えるか。

4. がん診療連携拠点病院に対する財政措置

- ① 補助金を増額して拠点病院である自覚を院内に認識させるべき。
- ② 1/2の補助では不用が出てしまうので、10/10とすべき。